

令和5年度 神奈川県立高津支援学校 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月29日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、ライフステージを見据えたキャリア教育の充実を図るため、系統的、発展的な教育課程を編成する。	①個別教育計画と「たかつ教育内容系統表」をリンクさせたカリキュラム・マネジメントを推進する。 ②キャリア教育の視点を持ち、授業改善と指導力向上を図る。	①個別教育計画を活用し、自立と社会参加の視点で育てたい力を明確に、社会生活の広がりをめざした教育活動に取り組む。 ②「校内人財バンク」「サポートシステム」「たかつ教育内容表」等より活用しやすいシステムを構築する。	①将来を見据え、育てたい力を明確にした教育活動に取り組むことができたか。 ②さまざまな仕組みを活用し、授業改善と指導力向上を図ることができたか。	①「たかつ教育内容系統表」の理科と社会の内容を追加した。個別教育計画で教科の評価を確実にを行うために書式の変更を行った。 ②「校内人財バンク」やボランティア等を活用し、指導内容をより充実させ授業に活かすことができた。	①「たかつ教育内容系統表」をもとに教育課程をよりバージョンアップする。 ②「サポートシステム」の利用件数が少ない。今後の積極的な活用に向けては工夫が必要である。	【学校評価部会】 「たかつ教育内容系統表」と個別教育計画とリンクさせただけではなく、公開授業研究会で公表したことは素晴らしい。 【保護者アンケート】 学校は児童・生徒の特性やニーズを把握できていたか→4点満点3.60(前年度比0.09↑)	①各教科のねらいを明確にするために「たかつ教育内容系統表」を活用し、授業改善に取り組んだ。保護者とともに個別教育計画の活用をより進める。 ②教員の他学部体験は5回実施した。放課後や長期休業期間中を利用して、学部ごとの学習会を合計18回開催した。会計年度職員や勤務時間の短い教員の参加の仕方については検討を要する。	①「たかつ教育内容系統表」のアップデートを進めるとともに、系統的、発展的な教育課程を編成する。 ②「校内人財バンク」や「サポートシステム」の活用のためのシステムづくりを進め、オンラインも活用しながら授業力と専門性の向上を図る。
2 児童・生徒 指導・支援	児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、教育的ニーズに応じた指導・支援を全職員で組織的に実践する。	①児童・生徒のニーズに応じた教材研究や教材の共有を図る。 ②エビデンスに基づくアセスメントスキルの向上を図り、児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた指導・支援を行う。	①教材室や校内サーバの環境整備を行い、職員間で教材を共有する仕組みを構築する。 ②予防的ケース会や学習会等を活用し、児童・生徒のニーズと課題把握を行い、組織的に支援方法を充実させる。	①教材の共有やデータを活用する仕組みを構築することができたか。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズに応じて、組織的に支援する体制づくりができたか。	①教材やデータの点検・環境整備については、係が点検したり整理整頓をしたりするなどしたが、定着するには至らなかった。 ②相談支援係、他クラスや他学年とともに課題の解決に努め、指導方法について検討した。また、担任、看護師と連携し、安全に医療的ケアを実施することができた。	①長期休業期中に、教室内や教材室等の整理やUD化を行う。校内の掲示板(web上)における教材や成果物等の活用もより推進する。 ②予防的ケース会を行い、自立活動教諭(専門職)を活用することで、課題解決や未然防止につなげることができた。継続して取り組む。	【学校評価部会】 コロナ後はコロナ前に戻るのではなく、大事なのは児童・生徒にどういう学びをさせたいか、ということである。児童・生徒の学びについて考え直してほしい。 【保護者アンケート】 学校は児童・生徒にとってわかりやすく学びやすい環境となっていたか→4点満点3.69(前年度比0.16↑)	①倉庫内の物品の整理および情報機器等が置かれた場所を新たに相談室として設置した。各教室や校内サーバの整理整頓・整備は今後も継続して取り組む必要がある。 ②学習会や教材の共有をすることで教員のアセスメントスキルは徐々に高まり、有効な指導・支援につなげることができた。今後も継続して取り組む必要がある。	①校内サーバ・掲示板のデータの整理・仕組みづくりを行う。図書室(スペース)の整備を進める。 ②ケース会や学習会の内容について多くの教職員が共有し、今後の支援・指導に活用できるようにする。

3	進路指導・支援	<p>自立と社会参加する上で必要な力を育成するため、本人のニーズや適性に合った「キャリア教育の推進」のための進路指導・支援を実践する。</p>	<p>①卒業後の生活を見据えた指導内容を構築する。</p> <p>②児童・生徒の発達段階に応じて、保護者が理解しやすい情報発信をする。</p>	<p>①系統表のバージョンアップを通してアセスメントや評価の方法を検討し、児童・生徒の発達段階に応じた指導・支援を行う。</p> <p>②懇談会や進路学習会等において、保護者のキャリア教育に対する理解を深める。</p>	<p>①児童・生徒の実態に即したキャリア教育の実践ができたか。</p> <p>②キャリア教育に関する適切な情報提供ができたか。</p>	<p>①保護者懇談会で進路学習会を開催した。また、進路懇談会を学部ごとに実施し、小中高それぞれの段階で取り組めること等の共通理解に努めた。</p> <p>②外部講師を招き、現地とオンラインとのハイブリッドでPTA主催の進路講演会を開催した。</p>	<p>①校内研究として、高等部学習指導要領から高等部の系統表作成に取り組んだ。次年度以降に活用する予定である。</p> <p>②保護者への適切な情報提供を図る上で、教員間の視点を揃えることに、より一力を入れる。また、発達段階に応じたニーズの把握と伝えるべき内容について、係と学部間の整理を継続する。</p>	<p>【学校評価部会】保護者に情報がしっかり伝わる周知をしてほしい。保護者や委員や「できるか」とはお願いしたい、という意味。ぜひ検討してほしい。</p> <p>【保護者アンケート】学校は児童・生徒や保護者に向けて、進路についての情報を十分にお知らせしていたか→4点満点3.35（前年度比0.06↓）</p>	<p>①保護者懇談会や進路懇談会を実施し社会情勢を踏まえ情報提供をしたが、幅広いニーズに合致する内容としては難しかった。</p> <p>②保護者や地域のニーズに応じて、学校ホームページ、学校だより、保護者お知らせ等により情報提供をした。保護者が求める情報提供量としては不足しているのので、改善策を講じる必要がある。</p>	<p>①キャリア発達の視点で保護者と情報共有し根拠のある指導・支援を行う。アセスメントスキルの向上を図る。</p> <p>②学校ホームページや通信等を活用し、小学部段階からの保護者の見学（校内実習や事業所）の会や学習会等を計画、実施する。</p>
4	地域等との協働	<p>共生社会の実現をめざし、地域の学校への支援に組織的に取り組むとともに、コミュニティスクールを活用した地域と連携した学校づくりを行う。</p>	<p>①地域を学習の場として活用し、地域と連携した取組を充実させる。</p> <p>②共生社会の実現に向けて、地域における障害理解を深める。</p>	<p>①繋がりのある団体等との活動をより一層充実させ、地域との連携を強化する。</p> <p>②積極的に地域資源を活用し、児童・生徒の活動を地域に発信する取組を行う。</p>	<p>①施設開放団体、社会福祉協議会、地域商店街等との協働ができたか。</p> <p>②地域資源を活用した取組を地域に発信することができたか。</p>	<p>①地域の諸団体及び商店街等と連携し、「秋の遊び場」を共催した。模擬店では、児童・生徒と近隣店舗とのコラボメニューを販売するなど、相互理解を促進した。</p> <p>②多摩高校文化祭内で作品展を実施した。全学部の児童・生徒が制作し携わったしおりを地域商店街で配架した。</p>	<p>①共生社会の実現を見据えた地域イベントとして、持続・発展していける運営体制等を、関係団体と整理したい。</p> <p>②本校の取組みを地域に発信するよい機会になった。</p>	<p>【学校評価部会】「学習発表会」は、体育館だけではなく校舎内をフル活用できるとよい。「たかつマルシェ」については地域に開かれるとよい。内部だけでももったいない。</p> <p>【保護者アンケート】学校は児童生徒にとって適切な交流活動をおこなっていたか→4点満点3.48（前年度比0.14↑）</p>	<p>①地域の商店街との連携、近隣の老人ホームや小中学校の清掃活動等により、地域との連携を深めることができた。今後も継続した取組が必要である。</p> <p>②年4回の施設開放調整会を実施し、施設開放を積極的に進めた。保護者や地域の方の来校回数は大幅に増えた。</p>	<p>①イベントの開催については目的を明確にし、保護者や地域への周知方法について検討を進める。</p> <p>②コミュニティスクール等を活用し、地域とのつながりを持続するための工夫を続けていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・児童生徒が安心して過ごせる教育環境の整備と危機管理体制を構築する。</p> <p>・子どもたちと向き合う時間を確保するために、効果的な教育活動を行い、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①児童・生徒の安全と健康を守るための環境を整え、防災教育・防災対策の充実を図る。</p> <p>②効果的な教育活動を推進するために、業務内容の精選と効率化を図る。</p>	<p>①社会情勢やガイドライン等を踏まえ、校内のマニュアルの整備・更新を行い、危機管理に努める。</p> <p>②業務・会議の見直しとTeamsの積極的な運用を進め、職員が意欲的に働ける環境整備を進める。</p>	<p>①危機管理体制を整え、防災教育や防災対策に取り組むことができたか。</p> <p>②業務の精選と効率化を図ることができたか。</p>	<p>①水泳指導の再開にあたり、プール管理及び水泳指導要項を改訂した。また、校内の安全管理マニュアルを集約し危機管理マニュアルを策定した。</p> <p>②チャットグループを活用し、教員間の連絡・情報共有を円滑に行った。分教室と小学部の年間授業時数を検証し、教育課程を変更した。</p>	<p>①マニュアルの更新を随時行い、実践的な活用につなげる。参加者がより主体的に動けるよう、訓練内容の更なる工夫と予算の確保が必要である。</p> <p>②デジタルとアナログのそれぞれの利点を活かし、効率的に業務を遂行し、児童・生徒との時間を確保する。</p>	<p>【学校評価部会】防災宿泊学習は非常に良い取り組みだが、教員だけでは大変。地域の方や企業も協力できるとよい。教員の負担増は心配なので、外部の力を借りることも大切である。</p> <p>【保護者アンケート】学校の教育環境（施設設備等）について、安心できる体制づくりができたか→4点満点3.20（前年度比0.06↑）</p>	<p>①防災宿泊体験・水泳学習は、経験のない教員が増えイメージが持ちづらかったが、安全に実施できた。日常的に常に危機管理を意識した取組や訓練の事前・事後学習の充実を図る必要がある。</p> <p>②会議の精選・効率化をより進め、教員がやりがいをもって効率よくプロセスを楽しみながら働ける方策を講じる必要がある。</p>	<p>①マニュアルを随時見直し、地域と連携しながら指導・支援内容をより充実させる取組を進める。</p> <p>②児童・生徒が安心して学べるための環境整備及び校務の整理と、地域と連携した危機管理体制の見直しを行う。</p>